

KSKQ あかねニュース No. 75

川西市障害者共働作業所あかね

〒666-0017 川西市火打 1-5-19

Tel&Fax 072-755-4101

ホームページ akanesan.net

E-mail: rasseyai-akane@deluxe.ocn.ne.jp

ダイナーの軌跡

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日) 発行 頒価 定価 一〇〇円

駅のホームに電車が入線する直前になると、駅員のアナウンスが流れます。「まもなく2番線に、大阪方面行きの電車が到着いたします。危険ですから白線の内側までお下がりをください。」……ところが、「白線」そのものが無い阪急電車の或る駅でのアナウンスは「黄色い線の内側まで下がって……」と云っていました。「黄色い線」とは云うまでもなく視覚障害者のために設けられた、幾つもの浅い突起を持つ30センチ角ほどの黄色いプラスチックタイルの列のこと。目の不自由な人はこれを頼りに、杖で確かめながら歩きます。因みに「白線」はホームのエッジから60センチ〜1メートルぐらいの所にある

「黄線」の5センチほど線路側に、黄線に平行に引かれていきます。「黄色い線」まで下がれば安全なはずですが「黄色い線の内側まで下がって」と云われるとちょっと心配になります。黄色い線の上は「安全な場所」ではない、というようにも取れます。視覚障害者は「黄線」によって守られているのですから、おそらく「内側」には黄線そのものも含むのでしょうが、ここは明確に「黄色い線まで下がって」と云ってほしいところでは。

これは聴覚障害者のかたを念頭に置いておくこともお察しのとおりです。耳の(多くの場合、口も)不自由なかたが、画面の向こうのコンピューターと「筆談」しながら、乗降に伴う困ったことなどを解決してゆくために設置されたのであろうこの機械を、誰かが利用しているところを私はまだ目撃していませんが、この機械を必要とされるかたにとっては極めて有用であるに違いありません。でも、無人駅以外では、やはり出来れば駅員のかたが対応してさしあげた方が「血の通った」やりとりになつて、良いと思います。

私たちの社会はルールで動いています。公的なルールはもちろん、所属する社会や集団ごとに夥しいローカルルールが設けられ、その集団に関わるにはそれぞれのルールを遵守しなければ

なりません。もちろん大多数の人はルールに従って行動しているのですが、時としてルールを守らない(守れない)人が出てくると、たちまち秩序が乱れます。たとえば、①公的機関に書類を提出するのに、締切日を守らない。②書類への記入の仕方を間違える。③義務として支払うべき金を支払わない。④遮断機の降りかけている踏切を無理に横断する：などという「公的ルール」絡みのものから、⑤アマチュアの懇親ゴルフコンペで、混んでいるのに延々と入念に芝目を読んで時間を費やし、前を空けてしまう。⑥演奏会・講演会などの最中に派手な着信音で携帯を鳴らす。…などの「ローカルルール」寄りのケースまで、様々です。もちろんこれらの人は全体の中でのごく少数、いわばマイナーなのですが、そのマイナーの人たちのために(と云うか、その人たちへの対応、すなわちトラブル処理のために)大きな時間と労力が「無駄に」消費されることになるのです。

時々、大勢の集まりに遅れてきた「重要人物」に、「あなたが来ないとこの会は始められない。あなたの到着を待っていた人が100人居る。あなたは皆を5分待たせたのだから、合計500分待たせたことになるですよ。」などと苦言を呈する人がいたりしますが、まさにそういうことなのです。

それでは、前述した視覚障害者や聴覚障害者に対する対応にも、この論理が当てはまるのか?と考えると、これは別の尺度で考える必要があります。

冒頭に挙げた「黄線」はおそらく今日では全国の鉄道駅の殆どのホームに引かれているはずです。「筆談相談機」はまだ始まったばかりですが、しだいに普及してゆくでしょう。



「障害白書」などを見ると、身体障害者は全国で350万人を上回っています。

そのうち視覚障害者は30万人強、聴覚障害者が40万人弱。…日本の人口1億2,800万人のうちの1%にも届きません。2000人のうち視覚障害者は5人・聴覚障害者は6人ということになります。数値上では一見マイナーに見えるこのかたたちの生活の安全と利便性確保のために使われる費用と労力が、さきほど述べた「ルールを守らない、一握りの心ない人たち」のために費やされるそれとは全く別のものであることは自明の理です。

知的障害者は全国で60万人に迫ると云われています。2000人中10人ほどです。もちろんこれとて、メジャーかマイナーかと問われればマイナーな存在ですが、「福祉」の大きなセーフティネットの中で、しっかり護られて然るべきです。視覚・聴覚障害を含む身体障害者は、そのケア・保護のポイントが、

傍目から見ても判りやすく、それだけに効果的な対策が打ちやすい。反面、知的障害者はケアのポイントが判りにくく、対策が打ちにくいのだと云われます。

知的障害者の中でも身体上の課題を抱える人は多く、その原因の一つは、彼ら自身が症状などを適切に説明できないために、タイムリーな射た治療が出来にくいからだ、とも聞きました。重い課題です。数値上では「マイナーな存在」であつても、手厚く費用・労力を投じて護るべきものと、社会的ルールを乱す存在として厳しく批判されるべきものとが有ることを、肝に銘じたいと思います。

芳川 雅美



妙見山ハイキング

に行ってきました！



共働作業所あかねでは、4月1日(日)に

毎年恒例「妙見山ハイキング」に行ってきました！

作業所メンバー、ボランティアさん、一般で参加いただいた方を
含め、総勢30名！

朝十時に「能勢電鉄妙見口駅」集合、まずは、のどかな風景を楽しみながら「妙見ケーブル黒川駅」までハイキング、途中、たくさんのお雛様も見ました♪さて、黒川駅からケーブルを横目に山登り開始です！前日の雨で足場も悪い状況でしたが、みんなで助け合い全員無事「妙見山クッキングセンター」に到着！

そして、お楽しみ「バーベキュー」を全員でいただき早春の一日(少し寒かったです…)を楽しみました。

たくさんのご参加、ご協力

ありがとうございました。



春よく来い



「氷がとけたら何んになる？」と子供に聞いたら都会の子どもたちはほとんど「水になる！」と答えるそうです。

しかし、雪国の子どもたちに「氷がとけたら何んになる？」、「春になる」と答えるそうです。

科学が発達し、ボタン一つで電気はつくし、ご飯は炊けるし、洗たくはできる、ジュースが出てくる、テレビが映る…。

科学がどんどん進んで日本は経済大国になりました。しかし、東日本大震災を経験し、人々は大きな支えであったはずの家族・友人・家屋財産など多くを失った傷あとは未だいえることはないでしょう。では、人にとっての「支え」とは何だろう、家族・仕事・金・財産・地位・

友だち・名誉…自分にとってほんとうに「支え」とは、これ等どれをとってみても心細い。必ず裏切りはある。では、ほんとうの支えとは何だろう。家族にも友だちにもお金にも仕事にも裏切られたら、何を信じ何を支えに生きれば良いのだろうか。すべてを失った時、「自分」を信じて生きることではないだろうか。しかし、自分も一人では生きていけない、そして、生れても来なかったはず。

今、生きている自分を信じ、自分をしっかりみつめた時、人と人がつながることの大切さも見えてくる、そこに絆を結ぼうとする。しかし、今の日本はほんとうに地域社会の中で人と人がつながり合っているだろうか。昔は「向こう3軒両隣り」であった。今、「隣は何をする人ぞ」の言葉

のように、隣、近所のつながりはほとんどきびしい状態になってしまった。テレビのニュースで写し出される孤独死・貧困死、人にみとられずに亡くなるニュースはあとをたたない。個人主義・プライバシーの保護・個人情報保護法など、本来、人を守るための法律であるべきものが、その法律が邪魔をして、おせっかいと言われるようと一歩踏み込んだお世話ができなくなっている。

「まあ、いいんじゃないのー」とアバウトな物事の考え方が許されない社会。

法令順守の名のもとにきまりごとが多すぎて人と人が気軽につながれない社会になっているのではないか！確かに法律をくぐりぬけて悪いことをする人もいるのも事実。しかし、そんな人はどんなぬけ道でもみつけないではないだろうか。

日本人にプライバシーはそぐわないと思う。昔から日本は個人主義の社会ではなく隣人とのつながりを大切にし、助け合いの社会だったと思う。欧米文化を取り入れて、高度経済成長と共に、人との関係

を疎遠にし、経済発展をとげてきた、そして、生きづらい社会になってしまったのではないか。時間はあっても余裕はない。自分の家はあっても居場所がない。

日本人の幸福度は世界に比べてとても低いそうである。先日、ブータン国王夫妻が、日本を訪問された。幸福度が、国民にとつての高い国だという。経済大国であることよりも国民の幸福度の高い社会を求めることはできないものだろうか。

きつと、ブータンの子どもたちのそんな声が聞こえてきそうである。東北地方の復興の道のりがとてもきびしいけれど、経済優先社会ではなく、幸福度の高い地域社会が生まれることを期待してやまない。そして東北に続いて、日本中がそれをお手本にして、幸せな社会、生れてきて良かった日本に変わってほしいものである。そして、障害者にとつても分けへだてのない社会、あるがままを受け入れる社会に変っていったほしいと。

春よこい 早くこい！

富田 啓子

もちつ、もたれつゝ

春の気配感じながら少しずつ、暖かな日差しに気持ちも緩む今日この頃、みなさんいかがお過ごしでしょうか？

年明けて、肌寒い日、暖かな日の繰り返しが続きましたね、体調など崩されていませんか？ようやく気候も落ち着きを見せる中、賑やかに遊ぶ子ども達の元気な笑い声と共に卒業、入学シーズンにあることを感じます。地域の保育園、幼稚園また小学校などあかねの仕事である行商やお弁当配達でメンバーと毎日寄せて頂くのですが、グラウンドで走り回る子どもや、いつも声をかけてくれる子、いつの間にか身近な近所の子のように思えてお節介しなくなったり(笑)メンバーの皆も、子ども達の勢いに押されながらも楽しそうに話し掛ける様子を見ていて微笑ましく思います。そんな何でもないひとコマ。当たり前である光景のはずが、

当たり前でなかった昔。障害者、変わり者、社会に適応出来ない者は隔絶されて生きてきた時代。

長い時間をかけて、家族や応援者によって少しずつ社会に問い続け、理解と権利を勝ち取って来た歴史。その積み重ねの上で成り立つ今、「ノーマライゼーション」や「共に生きる」という言葉が当たり前になった。実際、昔よりまだまだではありませんが、隔絶された者達にとつてよっぽど生きやすい時代になったと思います。昔のような薄暗い施設のイメージを払拭する明るい立派な建物、お洒落な名前、一人一人のニーズに対応する個別支援。個々の能力アップを目指す特別教育、ニーズに応じた細やかなサービス等々、一見、聞こえの良い言葉に守られているような感じがします。日本もやっと福祉社会になってきたのかと…。



間もなく福祉法も自立支援法から総合支援法に変わります。法律が変わるということは更なる福祉の充実に期待が高まる場所ですが、ではなぜ当事者である障害者、団体から不満や反対運動などがあちらこちらで聞こえてくるのでしょうか？

実の所、聞こえの良いもつともらしい福祉用語と、見映えの良い箱ものに踊らされているのでは？肝心な所は変わっていないのではないのでしょうか。

確かにハード面、目に見える形あるものには行政も対応しやすいし、充実させていく事はお金だけの問題と思いますが(それもなかなかですが...)人権、一人一人が生きていく権利を主張でき、自分らしく生きている事が出来る世の中を築けているのでしょうか？制度で与えられたサービス、そこに振り分けられ、守られて生きていく。しかし、そのサービスから細かい規定により漏れていく人もいます。

与えられ生かされる仕組みに不安を覚えます。パズルのように綺麗に用意された形に当て嵌められて生かされるような

社会より、雑多でごちゃごちゃ、でも一人一人が自分らしく生きる権利を主張できる社会、持ちつ持たれつ生きていく事の方が大事なのでは...

それをサポートするのが行政の役割であり、もつと柔軟に対応出来る制度を確立して欲しいと思います。

新年度が始まります、このような逆風に負けないあかねであり続けたいです。みなさん応援宜しくお願いします。

渡辺 誠



こんにちは！
共働作業所 あかねです！

共働作業所あかねが一番力を入れている仕事は行商です。作業所立ち上げ当初から、内職などの室内作業ではなく、できるだけ、私たちの働いている姿を地域の方に見ていただき、知っていただき、

地域の方たちと言葉を交わし、目と目を合わせてつながりあえる仕事をと、ずっと続けてきた大切に行っている仕事です。

行商にお伺いしている方々にしか、なかなかお伝えする機会がないので、今日はこの場をお借りしてあかねの行商商品をご紹介します。

行商商品にはあかねオリジナルの手作りケーキやクッキーと全国各地から仕入れているおすすめ商品があります。

手作りケーキは、宮崎県産の小麦粉、よつ葉バター、ミネラルたっぷりのきび糖、新鮮な卵など、できるだけ安心安全で生産者さんのお顔の見える原料を使っており、ベーキングパウダーや保存料などの添加物は一切使わず素材の味を生かした素朴なお菓子たちです。



自家製ケーキの売り上げNo.1は卵たっぷりマドレーヌ(1個120円) ふんわりふかふかでレモンのほのかな香り、焼き上がりのやさしいにおいはたまりません。



パウンドケーキは丹波黒豆と抹茶、自家製漬け込みフルーツとクルミ、カシス、ココアマーブル、オレンジ、自家製梅ジャムのケーキが定番商品です。そしてこの春は、国産レモンの皮をじっくりつややかに炊き上げ、相性の良いアールグレイを混ぜ込んだパウンドケーキも期間限定で販売中です！



またこちらにも皆様に愛され続けているあかねミックスクッキー(抹茶、ミックスピール、ココア&コーヒール、黒ゴマ)一袋280円。よつ葉バター100%のクッキーは、素朴でありながら風味豊かで4種を一度にお楽しみいただけおすすめです。その他、季節の限定商品をお出ししておりますので、ぜひお問い合わせください！



仕入れ商品のうちで人気No.1はなんといつても北海道南かやべ産川汲浜のだし昆布(真昆布・250g680円)大変お買い得なのに、よく出汁がでますし、形がそろっているのので、昆布へにもお使いいただけます。売り上げNo.2はこちらもまた北海道から届く鮭の味噌漬けと塩鮭。1切れ320円と少々お値段はありますが、一度お買い上げいただいたお客様に

必ずご好評いただいております。

こちらのお魚屋さんからは、季節ごとに生のほっけや鱈、いくらなど北海道ならではの新鮮な食材を取り寄せています。

その他うめ、わさび、イカ醤油、玉ねぎ、小魚など素材のお味そのままのおせんべい、サロンドロワイヤルのチョココレート、まろやかなお味で人気の南高梅、鹿児島島の麦みそ、モンゴル塩、はぶ葉入り健康ほうじ茶、乾燥糸こんにゃくのぷるんぷわん、たっぷり野菜と一緒に煮込めるヘルシーな九州七味フーズのラーメンなど、どれも作業所スタッフも定期的に購入しているおすすめ商品ばかりです。

また、作業所で回収している牛乳パックから再生されたおかえりティッシュやただいまロール(トイレットペーパー)、仙台の釜だし坊ちゃん石鹸、北海道のホタテ貝殻から作られた歯磨き粉などの日用品も扱っております。

書ききれないほどのおすすめ商品を満載して、毎日3台の車で川西、猪名川町、伊丹、ときには宝塚までメンバーの元氣と

ともに行商にお伺いしております。

そしてまだまだ新しい出会いを求めて、あかねでは、行商に伺わせていただくお宅や施設をいつでも募集しております。

行商にご協力いただける方、また、あかね商品ご購入ご希望の方は、ぜひ共働作業所あかねまでご連絡ください。

●電話&ファックス

072755・4101

岡田 小月

平野駅へ

いらっしやい！

今回は「能勢電鉄平野駅」での、お弁当やケーキの販売についてご紹介したいと思います。あかねでは、屋外での仕事が多く、その中でも平野駅は週3回と実施回数も多く「あかねの出張販売所」的な存在です。出店日には、朝からお弁当、ケーキ、テーブル、イスなど出店用具一式を車につんで、平野駅に向かい、次はその荷物を、メンバーと一緒に陸橋の階段を

登り、改札口まで運んでセッティングします。

さて、販売開始ですが：「このマドレーヌすきやねん」とおっしゃってください方、「今から仕事いくから、お弁当買っていくわ」といくつも買ってください方、いつも12時頃に、お弁当を買いにきてくださる方、ボランティアやヘルパーさんなどでもかわってくださいっている方も

「よっしゃ、これとこれと、あとそれもらおう」と豪快にお買い上げいただき：本当に、いろいろな方に支えられていると感謝の気持ちでいっぱいです。

この気持ちは一緒に販売している作業所メンバーたちも同じだと思います。

あるメンバーは12時頃になると「おっちゃんできてくれる時間やなあ」とお弁当を袋につめ、いつ来られてもいいように準備をはじめ、陸橋の先に姿が見えると「来たっ」と嬉しげに立ち上がります。

また、別のメンバーは、通る人に「お弁当はいかがですか」が、恥ずかしくて言えず、私が促すと曖昧な笑顔を浮かべて

立ち上がり、また、座するという事の繰り返しでした。その日は、お弁当もケーキも売れず困った私を見てさすがの彼女も、しぶしぶ立ち上がり「お弁当はいかがですか」と言い始めました。でも、そう簡単にうまくいくはずもなく、特に、彼女は恥ずかしいので、誰もいない時を選んで声をはりあげているので、もちろん誰も来られません。

もう、あきらめ気味になっていた時、あるお客様が「マドレーヌもらうわ」と来られ「さっきから頑張ってるなあ」と私達に笑いかけて下さった事がありました。私達は気づきませんでした。その日から、彼女はお客様に声をかけるようになり、今では、電車がつくと、立ち上がり、改札口めがけて、お声がけをしています。彼女は、それまで、いくら仕事について説明しても興味を示さず、きつく怒った時もありました。ですが今回、自分が頑張っていた事（しぶしぶでも）を見ていてくれた人がいて、その頑張りが認められ、売り上げに

つながった事、そして、「頑張ったね」と褒めてもらった事が、自分の中でつながり、理解して、嬉しく感じ、自ら立ち上がる行動につながったんだと思います。

考えれば、作業所のメンバー達や、我々職員、その他、サラリーマン、自営業、専門的な職業…いろいろな仕事の世界、おかれている状況がありますが、この気持ちの流れだけは共通だと思います。

誰もが、頑張って、褒められて、失敗もして、怒られて、泣いて、また、立ち上がって、そして、笑って進んで行くのだと思います。あかねにとつての「平野駅」は販売通し、お客様や能勢電鉄の方、お向かいのコンビニの方、いろいろな人達と接し、前に述べたような気持ちの流れ、喜びや嬉しさ、逆に辛さやうまくいかない事のジレンマを感じる大切な場所であり、そして、私も含めて、日々成長できる場所だと思っています。毎週、月・水・金、十一時～十二時四十五分(多少前後します)まで販売しておりますので、ぜひ、お立ち寄りください。

竹内佳子

平成二十四年度版
「オリジナルカレンダー」
お買い上げありがとうございました。



「あかねオリジナルカレンダー」につきましては、たくさんの皆様にお買い上げまた、ご協力いただき、ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

今回は、兼ねてから申し上げていた通り売り上げの一部(1本につき200円)を東北への義援金とさせていただきます。

- 総売り上げ本数 / 1, 894本
- 義援金金額 / 378, 800円
- 義援金内容 / 仙台あかねグループ

・ ゆめ風基金

各189, 400円

義援金は4 / 14・15に仙台までお届けに行きます。詳細は、次回の通信にてお知らせします。

被災障害者支援

★ゆめ風基金への募金活動 お礼とご報告★

毎週月・水・金曜日の午前11時から13時まで能勢電鉄平野駅の改札口付近で弁当とケーキ販売をしております。その機会にゆめ風基金の募金箱を置いております(今回は、3 / 4に実施いたしました「あかね元気寄席」にていただいた募金分も含みます)。皆様の暖かいご協力の結果、1月から3月末までに6, 074円が集まりました。ありがとうございました。まだまだ継続した支援が必要です。皆様、今後ともよろしくおねがいたします。

あかねでは、毎年、たくさんの行事やイベント、夏は地域のお祭りなど、作業所全員で頑張っています。そして、その影にはたくさんのボランティアの方達のご協力があります。そこで：以前からあかねをご存じの方、トライやる・ウィーク等であかねに来てくださった事のある中・高・大学生のみなさんぜひ、一度、のそきにきませんか？いろいろなイベントに参加していただいて「あかね」の良さを体感してください！

TEL 072-755-4101

あかねで
ボランティア
しませんか？



●あかねの掲示板●

あかねはうす行事予定

●開催場所：あかねはうす

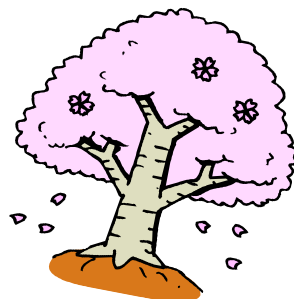
・4月22日(日) 10:00～

「ギター演奏会」

ワンコイン(500円)で手作りランチをご用意！

その他、コーヒーやおいしいケーキ等もご用意しております★

※コーヒー・ケーキ類は別途費用となります。



あかね作業所行事予定

・4月29日(日)・・・能勢電レールウェイフェスティバル出店<平野>

・4月30日(祝)・・・日生バザー<日生中央> バザー用品受付中！

・5月6日(日)・・・たけのこ掘り&バーベキュー<奈良>

・6月予定(詳細未定)・・・あかね恒例バス旅行

【編集後記】

ニュース中でも記載いたしました。が、カレンダーにつきましてはご協力賜りありがとうございました。また「妙見山ハイキング」も多数のご参加、ありがとうございました。今年は、少し時間がかかりましたが：季節は、やっと「春」をむかえています。新しい人との出会い、生活、仕事：あかねも、襟をただして新たな年度をむかえてまいります。この新たなスタートをぜひ、応援してください！

